

建設工業新聞（平成31年1月25日付）

女性技術者のつどい 官民40人が語り合う

日本技術士会・県測協

県内の建設コンサルタ
ントと国交省や県に勤務
する40人の女性技術者が
23日に倉吉市内で交流し
た。日本技術士会県支部
（伊藤徹支部長）と県測量
設計業協会（大野木昭夫
会長）が主催した初めての
「女性技術者のつどい」
で、共有する問題や活躍
の場の拡大など幅広い話



40人が参加した女性技術者のつどい（倉吉市内）

題について語り合った。
ホテルセントパレス倉
吉であった「つどい」には、
建設コンサルタントと県
土地改良事業団体連合会
の技術者25人、国交省鳥
取、倉吉河川国道事務

所、県土整備部などに勤
務する技術者15人が参加
したほか、来賓として県
女性活躍推進課の藤田博
美課長、鳥取大学工学部
の星川淑子教授が来賓と
して駆け付けた。最初に
伊藤支部長が「建設コン
サルタントで働く女性技
術者も増えてきたが、ま
だまだ少ない。男女関わ
らずに個性を尊重し、素晴
らしい「ハロー」を奏でら
れる世界であるべき。将
来的には、高校生や大学
生なども交えた場を作り
たい。大野木会長は「協
会としても人を育てるこ
とに力を入れている。み
なさんの話を聞きなが
ら、我々の業界が働きや
すい環境にあるのかよく
考えたい」とあいさつした。

講演では、藤田博美課
長が「働きやすい環境が
整えば、男女問わずに活
躍できる」と自身の経験
を踏まえて語りかけたほ
か、伊藤支部長も「男女共
同参画に向けた女性技術
者の活用」。星川教授も
「学生はもちろんだが、保
護者も仕事の中身を知ら
ない。PRが欠けている。
技術者の目や手は男女関
係ないので、しなやかさ・
したたかさ・しぶとさを
最大限発揮すべき「ハロー」
を送った。

フリートークの場では
「なぜこの業界には女性
技術者が増えないのか」
などをテーマに思いを
語った。参加者からは、土
木の仕事は工事を中心
で、測量や設計は学生に
見えない業務の内容が
伝わってこなかった「忙し
くて大変なイメージが
あった」「育休後に復帰で
きるのか」「災害発生時に
は大変だった」などの意見
が出たほか、女性技術者
を増やす方策として「現
場見学会は工業系の高校
だけではなく、小学生や
中学生にも拡大」「女性だ
からといって配慮され
すぎると、技術の向上につ
ながらない」「災害時の対
応をドキュメント方式で
子供たちに伝えたい」な
ど多くの話題で盛り上
がった。

この日の参加者からは
「また、集まって話をした
い」という声が多く出て
いた。

新聞記事

日本海新聞（平成31年1月28日付）

女性技術者増やすには

倉吉、人材確保へ意見交流



建設業界の女性の働き方について意見交換する参加者ら＝23日、倉吉市上井町1丁目のホテルセントパレス倉吉

女共同参画の取り組みについて紹介した。

この後、各テーブルごとに「なぜ建設業界に女性技術者が増えないのか」をテーマに意見交換。参加者からは「ぎつい、汚れるなどのイメージが先行している」「情報が少なく、測量技術など仕事内容が伝わりにくい」などの声が上がった。

また「専門学校だけでなく門戸を広げ、小型無人機ドローンなどの最新機器に興味を持ってもらう」「手に職が付き、一生の仕事になることをアピールする」など解決策についても案が出され、将来への展望を話し合った。（田中美千留）

建設コンサルタントで働く女性たちが交流を深める「女性技術者のつどい」が23日、倉吉市上井町1丁目のホテルセントパレス倉吉で開かれた。女性技術者が増えない理由や解決策などについて、ざつとばらんな雰囲気意見交換した。

全国的に少ない女性技術者や技術士の育成を目的に、日本技術士会鳥取県支部と真測量設計業協会が実施した。

建設コンサルタントで働く女性たちが交流を深める「女性技術者のつどい」が23日、倉吉市上井町1丁目のホテルセントパレス倉吉で開かれた。女性技術者が増えない理由や解決策などについて、ざつとばらんな雰囲気意見交換した。